

平成23年度 柏崎市刈羽郡学校教育研究会保健体育研究部の取組

1 はじめに

柏崎市刈羽郡学校教育研究会は、会員の資質向上及び学校教育の充実発展を図るため、柏崎市教育委員会及び刈羽村教育委員会、柏崎市立教育センター、関係機関等と連携し、特色ある事業を推進することを基本方針としている。今年度の部員校種別構成は、小学校51人・中学校30人・特別支援学校15人・柏崎翔洋中等教育学校2人の計98人で構成され、実技研修と授業研究を柱に事業を展開してきた。

2 事業内容

保健体育部の今年度の事業は、次のものである。それぞれの研修に小・中学校の教員が参加し、協議会や反省会で体育の指導について意見交換を行っている。

(1) 柏崎市立教育センターとの連携による事業

- ①「ニュースポーツ」 ②「性教育研修」

(2) 実技研修

- ①「競技力向上のための水泳指導」

(3) 研究部内授業研修

- ①小学校の部 ②中学校の部

小学校の部の研修は市内の小学校を4グループに分け、順番に授業研究を行っている。今年度は、第1グループの槇原小学校で、領域：Eボール運動（ゴール型）単元：ハンドボールの授業研究を行った。



3 授業研究（小学校の部）

(1) 単元名「つないでシュート！みらいハンドボール」

(2) 指導の構想

本単元では、ゲームにかかわる言語を活用しながら「ボールを持たない動き」を考え、それを全員がゲームに生かし、楽しめるようにすることを目標とする。そのために、動きを感じることで、感じた動きを自分なりの言葉で表現することで技能の高まりを目指し、次のことを試みた。

- ①「思い切りシュートする」感覚を楽しむ。
- ②「ナイスプレー（良い動き）」を感じるためのゲームを行う。
- ③ボールを持たない動き（ナイスプレー）を考える。
- ④「ゲーム言葉」の表現と活用（言語的な表現）を行う。

(3) 本時のねらい

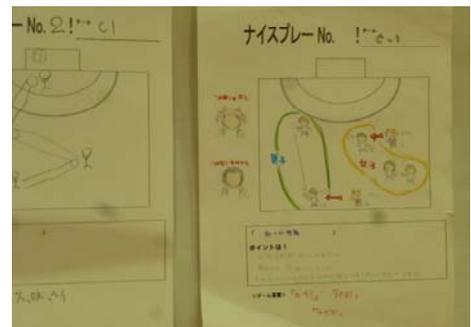
チームでチャンスゾーンの使い方を工夫しながら、ボールを持たない動きを考えることができる。

(4) 展開の構想

「ナイスプレー」がより意図的なプレーへと高まるよう「3つの動き（まっすぐ・横・まわって）」を使った「ボールを持たない動き」を工夫することがシュートの機会をつくるということに気付かせる。

(5) 授業を終えて

ボール運動はとかく得意な子供だけがボールを独占し、活発に動く運動になりがちである。そこで、子供たちにボールを持たない者の動きによってゲームが左右されることを理解させることにより、女子や運動嫌いな子供もボールをもらうために一所懸命動いたり、声を掛け合ったりしている様子が見られた。ハンドボールは、ボールを持たない動きを学習するには効果的であるといえる。



4 終わりに

学習指導要領の目標に述べられている「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」には、仲間と協力して競技することにより、楽しさや喜び、達成感を味わわせることが大切である。柏刈学校研体育研究部では、今後も教師の指導力の向上を図り、発達段階に応じた指導を充実させていきたい。